

大牟田市立手鎌小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、「大地に生きる手鎌 わたしたちがつなぐ農業と食文化」をテーマに、地域とのつながり、かかわりを深める食育を中心としたESDを推進し、地域を愛し、農業を愛し、地域のためにも行動する子どもを育てている。

手鎌校区には、干拓の歴史と、干拓の仕事や農業で暮らしを立ててきた人々の営みがある。また、有明海の海苔づくりなど海に生きる人々の営みがある。子ども達がそうした営みに目を向け、先人や地域の人々への尊敬・感謝の気持ちをもちながら、地域における自分達の役割に気付き、農業と食文化でつながるまちづくりを目指すようにする。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

地域とつながり、地域とかかわりを深める食育を柱とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科、外国語活動、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を立てている。

生活科・総合的な学習					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
「ひとつぶのたねから」	「子ども朝市をひらこう」	「共同農園をつくろう」 「海のめぐみ 有明海ののりづくり」	「共同農園をつくろう」 「伝えよう、『湧いねおどり』を未来へ」	「大地のめぐみ お米プロジェクト」 「未来へ伝えよう 手鎌の食文化『串だご』」	「ヤギと進める有機農業プロジェクト」

各教科	外国語活動	道徳	特別活動
-----	-------	----	------

3 特徴的な活動事例

【第2学年「子ども朝市をひらこう」】

2年生は、学校の農園で野菜作りを行った。どんどん大きくなり、たくさんの実をつける野菜の成長に驚きながら、作物を育てる喜びを味わった。収穫した野菜を給食や家庭での料理に使ってもらった子ども達は、もっとほかの人にも食べてもらいたい、見守り隊の人に食べてもらいたいという気持ちをもった。そこで、「朝市というのがあるよ。」と話したところ、子ども達は「朝市を開きたいな。」「みんなで話し合おう。」と、朝市を開くために必要なことを自ら考え、協力して準備をした。

こうして、初めての「子ども朝市」を開いた。たくさんの方々が、「よくできたねー。」と子ども達に声をかけ、野菜を買い求めて行かれた。子ども朝市は、学校と家庭、地域の温かい交流の場となった。その後、子ども朝市は、他の学年にも広がりを見せた。



初めての「子ども朝市」

【第4学年「共同農園をつくろう」】

4年生は、無農薬で白菜を育てることに挑戦した。子ども達は育て始めてすぐに、課題と出会う。白菜が虫に食われて穴だらけになっていた。子ども達は割り箸を手に虫を一つ一つ取っていくが、取り切れない。無農薬栽培の難しさに直面した子ども達はもっている情報を出し合う。ある子どもが、地域で無農薬の野菜作りを行っている江上さんの名前を挙げた。学校に来ていただいた江上さんから聞いた害虫駆除の方法を子ども達はいろいろと試し、工夫して白菜を育てていった。



学校・地域「共同農園」

共同農園では、白菜のほかに、江上さんにいただいたスナップエンドウの苗をいっしょに植え、棚作りをした。子ども達は、「実ができるまで大切に育てて、江上さんといっしょに食べたいです。」「害虫を防ぐ方法を3年生やほかの学年の人にも教えようと思います。」などと話していた。共同農園は、農業を通して地域の方とつながり、学年どうしのつながりを生む場となった。

【第5学年「伝えよう、手鎌の食文化『串だご』を未来へ」】

5年生は、潟いね踊りに出てくる「串だご」とはどういう食べ物かという疑問をもち調べた。串だごが干拓のきつい仕事の疲れをいやす食べ物だったということを知り、「歴史と里山の会」や「潟いね保存会」の皆さんが大事にしている串だごを守り、未来に伝えていくためにどうしたらよいかと考えた。そして、串だごのことを知ってもらうため、干拓の仕事の様子を描いた絵で串だごの箱を包み、箱の裏に串だごの由来等を書いた紙を貼った。これを公民館に持って行き思いを伝えた。



伝統の食文化「串だご」を未来へ

公民館長さんから「歴史と文化を大切にすまちを一緒につくっていきましょう。」と言っていた。その後、箱の絵と串だごの説明が公民館に展示され、多くの人々が目にするようになった。伝統の食文化を守り、伝えていきたいという子ども達の思いが形になった。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・子ども達が、地域の歴史・文化・産業・くらしを関係付けながら、人々の知恵や努力、協力の姿をとらえ、地域のよさを多面的・総合的にとらえることができた。
- ・学校と地域を農業と食文化でつなぐ活動、農業と食文化を未来へつなぐ活動を通して、地域の一員としての自覚を深め、まちづくりに参画・貢献する意欲と態度を育てることができた。

○課題

- ・地域が直面している問題等を子ども達が地域の人々から直接に聞き取るなどして、よりよりまちづくりへの課題を主体的・継続的に発見するようにすること。
- ・情報発信・交流・分析の方法を子ども達に示し、効果的に活用するようにすること。